



Serve to Change Lives

ガバナー月信

国際ロータリー第2550地区

2021-2022年度 5月号



芝桜(市貝町見上)

市貝町芝桜公園には、赤、ピンク、白、紫等20万株の色とり取りの芝桜のじゅうたんが楽しめます。公園は、「芳那の水晶湖」(塩田調整池)を掘作した際の残土の上に造られました。「芝ざくらまつり」は、残念ながら中止ですが、疲れた心を癒してくれます。お楽しみください。(公式HPより抜粋)

Contents

ロータリーの目的・四つのテスト	2	コーディネーターニュース	13
ガバナーメッセージ	3	2021-2022 地区内主要行事	13
「青少年奉仕」月間に因んで	4	物故会員	13
特集 各クラブの奉仕事業	5	ロータリー財団・米山記念奨学会功労者	14
会長エレクト研修セミナー開催報告	10	3月会員数報告	16
財団補助金管理セミナー&研究会開催報告	11		



ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。
具体的には、次の事項を奨励することにある。

- 第1** 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること
- 第2** 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること
- 第3** ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること
- 第4** 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1 真実かどうか
- 2 みんなに公平か
- 3 好意と友情を深めるか
- 4 みんなのためになるかどうか



「青少年奉仕」月間に寄せて

国際ロータリー第2550地区 2021-22年度ガバナー

いし だ じゅん いち
石 田 順 一 (真岡ロータリークラブ)

田植えの季節を迎えました。会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。昨年同様豊作貧乏は困りますが、ウクライナ侵攻の影響によりあらゆる食料品が世界中で値上がりし、その値上がりに耐える生活を思えば、自給率の高い米の豊作を願い、余剰米を国内外の人道支援に活用できると思われま。

さらに、オミクロン株の感染者が減ってきた、さあ経済活動にという舌の根も乾かぬうちに、オミクロン亜種BA.2に置き換わり感染者の増加が叫ばれています。一日も早くウクライナ侵攻の終息と新型コロナ禍の収束を願うばかりです。

時の流れが早いと感じます。時間は、どんな生き物にも平等で、寿命がありますので個々の動物にとって有限と考えられます。誰にでも若かりし頃があります。当たり前ですが1日、1日の積み重ねが今になっています。時の過ごし方で、豊かな人生と感じたり、残念で不満を持ったりしますが、それなりに必要な時間だったのだと思います。ただ一つ言えることは、有意義な人生を送ると満足度は高まります。いかせる格好のフィールドがロータリーだと思います。自分自身を磨きながら地域社会への貢献を続ける事ができ、何よりも、素晴らしい仲間たちとの出会いがあります。そしてその友人が持っている情報量は計り知れません。また、持っている情報量も休むことなく進化するので。飽きるはずはありません。

さて、5月は青少年奉仕月間です。ロータリー創立時は日本人の平均寿命は40歳代で、60歳代になったのは1950年になってからですので、多くの国では青少年の早い時期から奉仕の精神(善行)を植え付ける必要性があったとも考えられます。従って、ロータリーが青少年に対しての取り組みに目を向けることはごく必然的な流れだったのかもしれない。今、人生100年時代に、会員間の年の差は、会員と青少年の歳の差より広く、ローターアクトクラブ(RAC)の年齢制限を変更するように若者の範囲を変えて行かなければならないかもしれません。

国際ロータリーの第五奉仕部門であります青少年奉仕は、1916年青少年活動奉仕委員会設立から始まります。ロータリーが若い世代を重視していることを表したものです。RI会長も若者発想と行動力を大いに活用する事を推奨しています。少子化により、若者は減ってきていますが、我々が手を差し伸べる事はたくさんあります。

以下に、指針を挙げます。

1. 青少年の間での高い倫理基準及び倫理的な意思決定を奨励する。
2. 青少年のニーズや願望や関心を理解し、認識する。
3. 青少年に機会を提供する。
4. 国際ロータリーが提供する人道的、指導力養成、教育関連のプログラムへの青少年の参加を奨励する。

以上を理解し、活動されますことを期待しています。

大人になって「最近の若い者は…」と言いたくなります。2550地区のロータリアンも長寿社会になって会員間には50年ほどの年の差も希ではありません。20年も30年も違う世代に生きて、考え方が違うのが当たり前で、違わなければ進歩はありません。ロータリーは上手にロータリアンの歳の差は関係なく平等として、「多様性」と表現し中核的価値観の内の一にしています。その考え方の違いを認め合って活動に生かして行かなければならないでしょうし、若者に対しても公平(Equity)にしていく必要があるようです。ロータリーが与えてくれるもの、若者に触れ、リーダーシップを植え付ける機会を感じていただきたいものです。



青少年奉仕は未来のリーダーを育む

国際ロータリー2550地区
青少年奉仕委員会委員長

二 十 二 修 (宇都宮北RC)

5月は若い人々の育成を支援するすべてのロータリープログラムに焦点を当てる「青少年奉仕月間」です。すべてのロータリアンの責任は、年齢30歳までの若い人々の多様なニーズを認識し、よりよい未来を実現するために若い人々のリーダーシップスキルを高めことによって、若い人々に将来の準備する機会を提供することです。

当地区の青少年奉仕委員会は、指導力養成活動としてRYLAセミナーを毎年開催するRYLA委員会、国際理解と奉仕を通してグローバルな未来人を育成するインターアクト委員会、一年間の海外ホームステイを通して世界平和と異文化の理解を深め世界市民としての自覚を養う機会を与える青少年交換委員会、これら3委員会で構成されています。昨年度まで青少年奉仕委員会の1部門であったローターアクトは、今年度よりロータリーが指導育成するプログラムから、ロータリーとともに奉仕する真のパートナーとその立ち位置を変え、青少年育成プログラムより巣立って行きました。従って現在先に申し上げた3つの部門委員会で活動しております。

これらすべての青少年奉仕各部門プログラムの目的は、「将来、地域社会および世界のリーダーとなる青少年を育成する」事にあります。委員会としましては、各クラブのこの目的に向けての積極的活動をご支援してまいりたいと思います。

また、これら3つのプログラムは、すべてRIの常設プログラムであり、その枠組みと指針はRI理事会より示されております。先般のRI理事会にて、青少年交換に準ずる国際プログラムを2022年7月1日より再開する決定がなされました。

2年間国際プログラムが中止となり、国内プログラムも制限されている現在、明るいニュースと喜んでおります。次年度の青少年奉仕活動が活発に行われることをご期待申し上げます。

「未来のリーダーを育む」ことは、現在地域のリーダーである皆さんの責務でもあります。

是非、この夢のような意義あるプログラムを楽しんでいただきたいと思います。



特集記事を掲載するにあたり

月信第9号まで、ガバナー公式訪問の記事とともに各クラブの奉仕事業を報告いただき、各クラブの多くの特色ある奉仕事業を報告していただきました。事業の詳細を知りたいということで特集記事を掲載することにしました。

今般、社会的課題である「貧困」をキーワードとした「子供食堂への支援」、「施設への支援」、「エコキャップ・使用済切手の回収」等の特色ある奉仕事業を取り上げてみました。他クラブの参考になるものと思います。

(月信担当 真岡ロータリークラブ 市村忠男)

「フードドライブ事業への支援事業報告」

宇都宮ロータリークラブ2021-22会長 阿部欣文
社会奉仕委員会委員長 田嶋久敏志
SDGs委員会委員長 毛塚武久

私たちの住む宇都宮市は2018年にSDGs先進度調査で全国総合第3位の評価を得たまちであり、2019年には栃木県で初めて「SDGs未来都市」にも選定され、その名の通り持続可能なまちづくりをテーマに掲げた様々な取り組みが行われています。

こういった宇都宮の状況・背景に宇都宮ロータリークラブもいち早く反応し、早速2020-21年度には「SDGs委員会」を早速立ち上げ、私たちらしいSDGsのあり方を模索し、活動を行ってきました。例えば以前から私たちが独自に取り組んでいる社会福祉施設への支援がその一つです。「貧困」「教育」「健康と福祉」がテーマとなっているこの活動を私たちの使命とも思えますし、しっかりと継続していかなければならないと感じています。

そして2021-22年度、私たちは宇都宮市の一つの取り組みに目を向けました。それは「環境」「資源」などをテーマとした「フードドライブ活動」でした。昨今、世界的に脱炭素社会への動きが加速しており、環境問題や資源の枯渇対策に非常に注目が集まっています。宇都宮市においても環境問題に配慮した取り組みの中で、「ごみを取り巻く現状について家庭から出るごみの量を令和7年度までに減量する」といった具体的な指標が掲げられ、ますますその意識の高まりを感じさせられます。こういった中で行われている活動が「フードドライブ活動」です。

ごみの減量といえばよく耳にする言葉が「3R」(リユース、リデュース、リサイクル)ですが、フードドライブとは、家庭ゴミの8.5%を占めているといわれる「もったいない生ごみ(家庭で使いきれなかった未使用食品)」を持ち寄り、地域の福祉施設・食を必要とする方々へ寄贈する活動のことです。(対象の食品例は以下の通り)

- ・常温保存が可能な食品
- ・賞味期限が2か月以上あるもの
- ・未開封、生鮮食品以外のもの

宇都宮市は2018年度からこのフードドライブを自治体が主体となって実施しており、2021年度からは市役所の窓口で食品の通年受付を開始しています。この活動に私たちは非常に関心を持ち、2021年11月に宇都宮市環境部ごみ減量課殿とNPO法人フードバンクうつのみや殿から講話を頂けることになりました。この講話の中でごみ問題とその解決に向けて取り組まれている事業の現場など様々な声を聴くことができました。そこで感じたのは、このフードドライブの魅力の一つでもある、“ほんのささやかな行動”から始められるということです。例えばリサイクルというと、整理をすることから始まり、物を集める広い場所が必要になり、加工するために専門的なノウハウが必要になり、生まれ変わって物を引き取るという何段階ものフェーズがあります。さらに事業を始めるためには準備コストもある程度かかってしましますが、フードドライブはそのような大きな手間は一切ありません。ごみにする食品を持ち寄り、必要な方へ届けるのみで無駄なくごみの減量に貢献することができます。このハードルの低さにとても魅力を感じました。

フードドライブ事業を広めるためにまず私たちができることは、「自分たちが実際に実施すること」です。家庭にある食品を例会会場へ持ち寄り、フードバンクとして宇都宮市へ届けます。定期的に実施していき、ごみの減量化の実現に向けての現実的な一歩を自分たちが踏み込み、そしてけん引できるようこの活動を発信していきたいと思っています。

この他にも、宇都宮ロータリークラブには「子ども食堂」や「学生服無料クリーニング」「コロナ支援事業」など、“私たちらしい”SDGs活動を実施している会員がたくさんいます。引き続き未来を育む取り組みを継続して支援・実施していきたいと考えております。

「ペットボトルキャップ回収事業報告」 ー限りある資源を大切にー



真岡西ロータリークラブ
親睦活動委員長 廣川 正人



ロータリーのメンバーとして何ができるのか、新型コロナウイルスの感染が世界に拡大し、ロータリーとしてのボランティア活動は、いかに真岡高校・真岡女子高・施設などの人たちとごみ拾いの活動もできない状況が続く中で、何かできることはないだろうか?と考えました。

私は昨年約1カ月入院をし、退院後1カ月半、酸素を付けての生活を余儀なくされました。

その時、日本医療はとても進んでおり(薬など)、ワクチンはやはり大切なものだと実感しました。

そのことがきっかけになりペットボトルキャップのリサイクル(エコキャップ)の重大さに気づきました。そこで資源の大切さを改めて思いました。

弊社は運送・古紙類・空き缶類などのリサイクルおこなっている会社です。

その中でペットボトルも扱っていますがペットボトルはそのままプレスをしてリサイクルをしているメーカーに出荷しておりました。

当然ペットボトルのキャップも一緒です。

ペットボトル→ポリエチレンテレフタレート(PET) キャップ→ポリプロピレン(PP)

ペットボトルのキャップでワクチン!?

ペットボトルのキャップを回収しているボックスを時々見かけていたことを思い出し、リサイクルできるのだと…。

せっかくなので、この機会にキャップを提供してワクチンに…と思い立って、キャップを世界の子供たちのワクチンになるのなら、たくさん集めようと思い集め始めました。

せっかくなので、この機会に詳しく調べてみました。

ペットボトルのキャップを集めて、それをリサイクルすることで生まれた利益を、ワクチン代として発展途上国の子供たちのために寄付する「エコキャップ運動」というものがあることが分かりました。

NPO法人に認定されているJCVという団体が活動していました。

ペットボトルのキャップが多くの利益を生み出していることを知りました。

支援実績のある主な国はミャンマー、ラオス、ブータン、その他だそうです。

日本に住んでいるとなかなか分からないのですが、アフリカをはじめとする発展途上国などでは医療体制も整っていない国がたくさんあるそうで、そこではワクチンがないために1日4,000人、時間にして20秒に1人の赤ちゃんや子供が命を落としてしまっているとのことです。

世界の子供にもワクチンを日本委員会(JCV)は子どもワクチン支援を行い、こうした子供たちにワクチンを届け子どもたちの未来を守る活動をしていてくれます。

定期的な予防接種活動が各地に広がり世界で安く購入できる環境が整ったことで犠牲者の数は半分程度までに減りましたが、**今でもワクチンさえあれば助かる小さな命が1日4,000人も失われています。**

5歳未満の死亡者数は520万人もいるそうです。

その中でワクチンがあれば予防できた命が約3人に1人といわれています。

そこでキャップを約2キロ集めることでポリワクチン1人分のお金に変わります。

キャップ集める方法はいくつかありますが基本的には自宅や会社、学校などでキャップを集め、回収業者へ引き渡す方法としては直接

特集 各クラブの奉仕事業

回収に来てもらう、持ち込む、郵送などもあります。

今回は約1,500キロを持ち込みました。

では次にペットボトルキャップがワクチンになるまでの流れを調べてみました。

- (1) ペットボトルキャップは回収業者によってリサイクル資源として売られています。
- (2) 売られたものの売却益がJCVへの寄付となります。
- (3) UNICEFと協力し、世界のワクチン工場へワクチンを発注します。
- (4) 作られたワクチンは冷凍のまま空輸で、支援国へ届けられます。
- (5) 支援国のワクチンセンターで冷蔵、冷凍状態で保管されます。
- (6) 各地の予防接種会場でワクチンを接種します。

こういった流れでたくさんの命が救えるワクチンが届けられるのです。

ペットボトルのキャップそのものがワクチンになるの!?なんて一瞬驚いてしまうかもしれませんが、リサイクル資源として売られた費用がワクチンに変わるということですね。

捨てられてしまうものをリサイクルすることで、このように人助けが出来るということはとても素晴らしいことです。

ですが、キャップを運営団体に送る輸送の費用などを考えると、そもそもキャップを回収する必要があるのか?ならば、その輸送費をそのまま寄付する方が良くない?と活動に賛成しない人もいるのも現実のようです。

そう考えると、違ふかたちで寄付してもいいのでは?と思うのも確かですね。

しかしこの活動の本質としては、世界で起きているこのような事態を多くの人に知ってもらう事が大切なのではないのでしょうか?

この活動を知ったうえでボランティア活動をもっと身近に感じるきっかけになればいいのではないかと思います。

最後に、今後真岡西ロータリークラブとしても今回をはじめとしてロータリーメンバーにも協力を仰ぎ、引き続きボランティア活動の一貫として末永く続けることができれば良いと思っております。

「エコキャップ回収事業報告」

足利わたらせロータリークラブ
会長 泉 博康



この度「エコキャップ回収事業」と題して「ガバナー月信」への投稿を依頼され、当時を知らない私はまずスタート年度の会長・幹事・社会奉仕委員長に、その経緯を聞くことから始めました。しかし10年程経過していることから曖昧な部分を多く感じたので、現況報告書と他の会員への聞き取りをする事に致しました。

社会奉仕活動の一環として、2010～2011年度から「エコキャップ回収」がスタートしたようです。その時は単に会員からそれまで集めたペットボトルのキャップを、年度最終日に業者へ引き渡すだけの活動でしたが、その後「エコキャップ860個でポリオワクチン1回分になる」という情報を知りました。そしてその時国際ロータリーで推奨している活動に「ポリオ撲滅」がある事と重なり、活動を重ねて行うことで2重の活動になると考え、翌2013～2014年度から全会員へ声掛けをしてその活動の幅を広げることができました。その後回収量も増え各会員ごとに、エコキャップが一定量集まったら事務局へ不定期に持ち込むようになり、年度最終日に会長・幹事・社会奉仕委員長そして他の会員にも声掛けをして、足利市南部清掃センターへ、増えたエコキャップを多くなった参加会員と共に持ち込むようになりました。

スタートから10年以上の月日が過ぎ振り返ってみると、その時の年度により回収量に差はあるものの、毎年わずかではありますが社会貢献ができた喜びを感じています。エコキャップ430個で約1kgに相当するそうです。前述したとおりエコキャップ860個でポリオワクチン

1回分です。新型コロナの影響があったものの昨年度は約60kgのエコキャップが回収され、ポリオワクチン30回分になりました。ちなみに前々年度は約100kgの回収で50回分になりました。

エコキャップを事務局で保管するようになってから、時間の経過とともに汚れが目立つようになり、更に悪臭を放つようにもなりました。又足利南部清掃センターへ持ち込み後先方で洗っていることを聞き、今ではよく洗ってから集めるようになりました。更に活動することで気付いたことですが、ペットボトルのキャップという身近で性別や年齢に関係なく手にするもののため、子供からご高齢の方まで幅広く家族で参加できる活動と改めて認識いたしました。今では一般的な飲料にとどまらず健康補助飲料や調味料への用途も広がっております。当クラブでは一人でも多くの子供たちのために、これまでもそしてこれからも継続事業として社会奉仕委員長を中心に活動して行きます。どうぞロータリアンとして温かく見守っていただければ幸いです。

「ペットボトルキャップ回収事業報告」

鳥山ロータリークラブ
会長 萩原 宣子



ガバナー訪問のおり、石田ガバナー、大村第2グループガバナー補佐に当クラブの奉仕事業についてご案内をさせて頂いたところ、その内容について「ガバナー月信」に奉仕活動に関する寄稿の依頼がありました。他のクラブの皆様を紹介する内容なのかと考えるところはございますが、クラブの一つの活動として御理解いただければ幸いです。

その奉仕事業の内容は、具体的に申し上げますと、回収したペットボトルキャップをワクチンに変えて必要な方に届けるという事業です。

昨年度の当会の例会において、会員から来年度はロータリー財団補助金を利用した事業を当会は行わないのであれば、独自

で何か行うことで当会の活動を活発化させることができないか、それならこのような活動があると提案されたものが、ペットボトルキャップ回収事業でした。

その事業を行っている「NPO法人 世界の子供にワクチンを 日本委員会」があり、「ペットボトルキャップ2kgがポリオワクチン1人分に」は会員数の少ない当会でも手軽に取り組むことが出来る内容なので、自主的に取り組むものとしては、ハードルが低く取り組むことが出来るのでは、さらに現在のSDGsへの取り組みにも繋がり、プラスチックごみの減少になるのではないかと、小さい活動から大きな活動につながる取り組みになっていくのではないかと、例会に参加していた全ての会員に説明を行い、様々な考えはありましたが、会員の理解を得て次年度の活動として取り組むことになりました。

ペットボトルキャップ回収事業は、すでに日本全国の様々な団体が取り組んでいることもあり(栃木県内では足利市などが取り組まれている)事業を推進する後押しにもなりました。

国際ロータリーではポリオ撲滅のためのワクチン提供をおこなっております、その規模はとても小さなものですが、この回収事業を行い、ロータリアン以外の地域住民も方にも、ポリオ撲滅活動の輪が広がればとの思いもあります。

実施において会員企業に回収ボックスを置くだけでなく、やるのであれば那須烏山市内にできるだけ多くボックスの設置を行い、ロータリークラブの活動を地域の方々の知っていただける事にも繋がるのではと、活動の内容が充実する意見が出てきました。とりあえずスタートとして、8台ほど設置をしてみることにしました。

設置場所の確保のために、市役所に相談に伺ったところ、そういう取り組みであれば市有施設への設置も可能であると助言を頂き準備は進んで行きましたが、新年度に入り本格的に活動を進める段階でコロナによる市内公共施設の利用停止など設置場所の利用が制限され、年度初めからのスタートが出来なくなる状況になりました。正直今年度の事業開始をためらいました、このコロナの状況もいつ

特集 各クラブの奉仕事業

までも続くことはない希望を持ち、当初より遅れましたが、令和4年4月より行い、まず目の前の一步を確実に踏み出していこうと思います。烏山ロータリークラブは会員が17名の小さなクラブです。年齢層も高く、大きな事業活動するとなると二の足を踏んでしまい、企画構想倒れになる活動が多くなりがちで、正直今後の活動が縮小していくのではないかと危惧しておりました。私たちは大きな事業をすること・目立つ事業に取り組むこと、それができれば何の心配もいらないのですが、まず、身の丈に合った活動を地道に進めることで、会員のロータリークラブへの思いが途切れないように、ロータリークラブの理念を実現するため、今後は様々な活動・事業を通して地域の方にロータリークラブの活動をもっと認識していただいて、ロータリー活動に多くの賛同者を得ることができるよう、頑張っ

「蛍光ペン贈呈式開催報告」

国際ロータリー第2550地区第9グループ



2022年2月26日(土)第9グループの4クラブが、蛍光ペン贈呈事業を実施した。約50年前より、グループ内で地域の特別支援学級への支援を目的に、毎年事業を行っている。ここ数年は「秋の自然に親しむ会」として紙漉き体験の事業支援を行っていたが、コロナ禍により実施できなかった。本年は代替事業として同支援学級全員を対象に行っている「たんぼほ作品展」の参加記念品として7色蛍光ペン500本を贈呈した。

三好ガバナー補佐は、あいさつの中で事業の当初のころ、特別支援学級の子供たちが唐澤山農場でぶどう狩りをして、自然の中で楽しむだけでなく、ごみ拾いをしながら社会の一員であることを感じてもらう教育の一環

にもなっていることや、形を変えながら今も続いており、グループ内150名のロータリアンとともに今後も続けていきたいことと述べている。

また、永年の支援に対しグループあてに感謝状を授与されました。この贈呈式の内容は、地域のケーブルテレビや新聞へ記事が掲載された。

たんぼほ作品展の児童・生徒に蛍光ペン贈呈
国際ロータリー第2550地区第9グループ

【佐野】国際ロータリー「特別支援学級への支援」の一環として、毎年実施している「たんぼほ作品展」の参加記念品として、7色蛍光ペン500本を贈呈した。

2022年2月26日(土)、第9グループの4クラブ(佐野、沼、葛生、市)が、市内の特別支援学級の児童・生徒に、特別支援教育研究會による作品展を支援しようとして、市特別支援教育研究會に7色入りの蛍光ペン500セットを贈った。写真。

【佐野】佐野、佐野東田沼、葛生の4ロータリークラブ(RC)は2月26日、市内の特別支援学級の児童・生徒による作品展を支援しようとして、市特別支援教育研究會に7色入りの蛍光ペン500セットを贈った。写真。

4RCは1970年から毎年、同学級の児童・生徒にブドウ狩りや和紙すきなどを体験してもらう「自然に親しむ会」を開催。新型コロナウイルス禍で2年連続中止となったため、同研究會が主催する「たんぼほ作品展」の記念品として蛍光ペンを贈ることを決めた。市内のホテルで行われた贈呈式で、佐野地区代表の

これまでに「ブドウ狩りや紙すき体験、県内観光地へのバス旅行など、さまざまな事業を行ってきた。今年、コロナ禍のため、みんなで行けなかったことから、蛍光ペン500本を贈った。

26日の贈呈式には、第9グループガバナー三好仁、ガバナー補佐三好ガバナー補佐は「自然の中に出かける代わりに、絵が大好きな皆さんにペンを贈りたい」と述べた。

三好ガバナー補佐は「自然の中に出かける代わりに、絵が大好きな皆さんにペンを贈りたい」と述べた。

**特別支援学級支援
ペン500セット寄贈**
佐野の4RC

【佐野】佐野、佐野東田沼、葛生の4ロータリークラブ(RC)は2月26日、市内の特別支援学級の児童・生徒による作品展を支援しようとして、市特別支援教育研究會に7色入りの蛍光ペン500セットを贈った。写真。

4RCは1970年から毎年、同学級の児童・生徒にブドウ狩りや和紙すきなどを体験してもらう「自然に親しむ会」を開催。新型コロナウイルス禍で2年連続中止となったため、同研究會が主催する「たんぼほ作品展」の記念品として蛍光ペンを贈ることを決めた。市内のホテルで行われた贈呈式で、佐野地区代表の

これまでに「ブドウ狩りや紙すき体験、県内観光地へのバス旅行など、さまざまな事業を行ってきた。今年、コロナ禍のため、みんなで行けなかったことから、蛍光ペン500本を贈った。

26日の贈呈式には、第9グループガバナー三好仁、ガバナー補佐三好ガバナー補佐は「自然の中に出かける代わりに、絵が大好きな皆さんにペンを贈りたい」と述べた。

三好ガバナー補佐は「自然の中に出かける代わりに、絵が大好きな皆さんにペンを贈りたい」と述べた。

2022-23年度会長エレクト研修セミナー開催報告

PETS実行委員長

増山 誠 (宇都宮陽東RC)



令和4年3月13日(日)、ベルヴィ宇都宮において2022-23年度(佐貫直通ガバナー年度)の会長エレクト研修セミナーが開催されました。ホストクラブは、宇都宮陽東ロータリークラブです。

このセミナーを開催するにあたって、当初は、作新学院大学において、「会長エレクト研修セミナーおよび幹事エレクト研修セミナー」として行う計画を立てていました。しかし、新型コロナウイルスの広がりにより、幹事エレクト研修セミナーは後日に延期することとし、その後、まん延防止等重点措置が再延長となったことにより、急遽、会場をベルヴィ宇都宮に変更し、会長エレクト研修セミナーとして開催しました。当日は、抗原検査と検

温等の新型コロナ対策を行い、万全を期しました。

セレモニー後、佐貫直通ガバナーエレクトが登壇し、まず、RI会長のテーマと方針についての話がありました。

2022-23年度国際ロータリー会長のジェニファー E.ジョーンズ氏は、国際ロータリーでは、女性初の会長に選出された方です。佐貫直通ガバナーエレクトは、ジョーンズ氏の紹介に、ジョーンズ氏がスピーチしている動画を映し、親しみやすさの演出をしていました。

2022-23年度のRI会長テーマは、「イマジンロータリー」です。2022-23年度を通じて、ロータリーのすべての会員が、個人、クラブ、地区として、多様性、公平さ、インクルージョン(DEI)への取り組みの実践を奨励する、との内容と理解しました。

次に、佐貫直通ガバナーエレクトは、次年度のガバナーメッセージとして、「ロータリーを理解し 想像し 多くを達成しよう」と呼びかけました。

2022-23年度の佐貫直通ガバナー地区方針は、

- 1、ロータリーの 活動を知る
- 2、ロータリーの 歩み(活動)に参加する
- 3、ロータリーで 汗を流し 皆で社会を支える で、分かりやすい地区方針と思いました。

続いて、中谷研一地区研修リーダーから、クラブ会長の役割と責務それとクラブ運営について、懇切丁寧な助言・話がありました。

会員に、果たしがいのある責任を与えることによって始めて会員は、ロータリーを理解しロータリー活動を継続することを目標とすることができるようになります、との話もありました。

ここで、休憩に入り、休憩後、地区委員会の各委員長からそれぞれの2022-23年度委員会方針の発表、鈴木修司次期地区会計長から次年度地区資金予算の説明がありその承認、橋本正行地区幹事から公式訪問についての話と続き、まとめとして、中谷研一地区研修リーダーの講評でセミナーは終了となりました。

実行委員会としては、このセミナーでは、会長エレクト同士による討論会はできませんでしたが、当初から、「リアルなセミナーにしよう。」との合言葉で運営の準備を進めてきましたので、そのようにリアルなセミナーを行うことができたこと、また、運営面から会長エレクトの次年度の会長になるための準備のお役に立てたことで、有意義なセミナーになった、と思います。



「2022-23年度財団補助金管理セミナー&研究会」 開催報告

2021-23年度
第2550地区 ロータリー財団委員会 委員長
森本 敬三 (大田原中央RC)

さる、3月27日(日曜日)ベルヴィ宇都宮にて次年度地区ロータリー財団委員会主催による「2022-23年度ロータリー財団補助金管理セミナー&研究会」が新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を実施して開催いたしました。

このセミナー&研究会は、例年ですと次期会長、次期財団委員長の出席を得て毎年2月に開催されていましたが、県の新型コロナまん延防止施策が2月に実施されましたので、3月27日に延期し、出席者も各クラブ1名にお願いしたしだいです。特に各クラブには地区補助金申請期限が4月25日となっていますので、皆様には忙しい思いをさせてしまいました。

ご来賓には、第1ゾーン次期ロータリー財団地域コーディネータ(RRFC)の飯村愼一様にご挨拶いただき、そして講演には第1ゾーン恒久基金/大口寄付アドバイザー中谷研一様に「恒久基金/大口寄付」について大変わかり易くお話をいただきました。

<ウクライナについて>

さて、本年2月に東ヨーロッパであつてはならない事態が発生しました。国連常任理事国ロシアによるウクライナへの武力侵攻です。ウクライナでは多くの人々の命が失われるという悲劇が発生しています。そして戦禍から逃れるために多くのウクライナ国民が近隣諸国に避難するという事態になっています。国際ロータリーではロータリー財団の災害支援補助金にウクライナ災害支援基金を設け人道支援活動にいち早く対応すべく世界中のロータリアンに基金への支援を呼びかけています。日本に於きましても辰野理事はじめ三木財団管理委員の呼びかけもあり各地区での対応を致しました。各クラブ様におきましても、ご理解を賜り災害救援基金へのご支援誠にありがとうございました。



<DDFについて>

さて、このセミナーでは、地区財団活動資金(DDF)の現状と用途についてお話させていただきました。このDDFは皆さまから3年前に年次寄付として支援していただいた資金で成り立っている事、ワールドファンド(WF)とのシェアシステムで運用されている事、繰越された金額は5年で使い切る事、地区補助金、グローバル補助金、奨学金、ポリオ・プラス等地区で行われる奉仕活動に全て活動資金として使用される事等の説明をさせていただきました。皆様より支援されました資金がどの様に分配され、使用されているのか具体的にお話させていただきました。



<恒久基金について>

次に、恒久基金です。恒久基金の元本はそのままにその運用益を奉仕活動の原資として成り立っています。財団では2025年までに20億2500万ドルを目標に皆様に恒久基金への支援をお願いしている所です。

また、冠名基金では支援者様のお名前を冠した冠名基金(25,000ドル)を募集しています。お名前を冠した基金が永遠に受け継がれ目的の支援に生かされ続けます。

<補助金について>

さて、続きましては補助金についてお話ししたいと思います。

その前に、各クラブ様におきましては地区とクラブの間での覚書を締結していなければなりません。この覚書は一つの約束事ですので必ず締結しなければなりません。

先ず地区補助金ですが、地区補助金は皆さまから寄せられた3年前の年次寄付の資金を活用します。その資金の使い方や奉仕活動に有効に活かされ地域奉仕活動の一助になっているか等の約束を設けたりして、その資金が地域の皆様のお役に立っているのかを補助金小委員会では書類審査いたします。また、委員会では資金が公平に配分される様、対象クラブが3年

財団補助金管理セミナー&研究会開催報告

前に支援していただいた一人当たりの金額(100ドル)を最低基準として算出、計算させていただいています。

<グローバル補助金について>

グローバル補助金の申請受付、承認は全てWEBで行われ、本国のロータリー財団(TRF)が行っています。地区ではその承認された案件のDDF支援が主なものになります。ですから最初にDDF使用申請を補助金小委員会に申出ていただきます。

地区では、クラブに自己負担分としてDDFの10%を拠出していただきます。

プロジェクト一件に対してDDFからの拠出は10,000ドルを限度としています。

また、プロジェクト内容については日本の場合はどうしても支援国クラブとしての役割が多く、中々実施国としては難しい面もありますが7つ目の重点分野である「環境保全」が入りましたので、ここを突破口としてVTTも含めて研究してみてもは如何でしょうか？

<ポリオ・プラスについて>

国際ロータリーでは1985年ポリオ・プラスとしてポリオの他5つの感染症(破傷風、はしか、ジフテリア、百日咳、結核)を含めた取り組みで始めました。現在では、サーベイランスやワクチンの供給、保管などのネットワークを含めたものをいいます。



国際ロータリーでは37年もの永きにわたり、ポリオの根絶を第一に取り組んでまいりましたのはご存じの通りです。皆様からのご支援のお陰で昨年にはナイジェリアで根絶宣言がWHOより発表されアフリカ大陸で野生株によるポリオの発生が無くなりました。後はアフガニスタンとパキスタンの2か国です。現在までこの2か国では野生株による発症は一桁で収まっています。GPEIでは2026年をWHOによる根絶宣言の目標にしています。国際ロータリーでは、ポリオ根絶がなされるまでは他のプログラムは行わないと宣言しています。

地区目標はお1人30ドルです。宜しくお願いします。

<ポール・ハリス・ソサエティについて>

ポール・ハリス・ソサエティ(PHS)は、年次基金、ポリオ・プラス、または承認された財団補助金に、毎年1,000米ドル以上をご寄付くださる方を認証するプログラムで、財団に継続的な支援を寄せてくださる寄付者の方々に感謝の気持ちを示すことを目的としています。現在地区内には20名の会員の方々がおられます。



地区委員会では、ロータリーカードとこのPHS一緒をお願いしている所です。つまり毎年1,000ドルをお願いするわけですがロータリーカードから毎月10,000円を引き落としとして頂くと知らぬ間に年1,000ドル以上になるためにわずらわしさが無くなります。また、ロータリーカードの地区での保有率は僅か2.2%なのです。

青少年育成のための奨学金や平和、紛争予防等まだまだ、財団についてのお話は尽きませんが、詳しくはハンドブック並びに資料編に記載がありますのでそちらをご覧ください。また、それぞれ担当の委員会がありますのでガバナー事務所を通じてメールなどいただければ担当委員長がご対応させていただきます。

・資金推進小委員会	委員長	長谷川 孝(22-23年度 羅田 秀顕)
・財務管理小委員会	委員長	森田 佳延
・平和フェロー・奨学金委員会	委員長	赤坂 圭一
・ポリオ・プラス並びに資金推進委員会	委員長	村井 邦彦
・学友委員会	委員長	岩本 泰史
・財団監査委員会	委員長	川村 寿文

各クラブの奉仕活動のお役に立てるよう財団委員会では情報の共有と収集など研鑽させていただいています。

新型コロナ禍で対面でのクラブ例会の開催が思うに任せない状況ですが、地区目標を達成できます様、皆様の温かいご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。



会員増強からモチベーションアップへつなげる

長い時間をかけてようやく新しい会員の入会にこぎつけて安堵したのも束の間、親しかったクラブの仲間が退会するという情報が耳に入ってやりきれない思いに……。こうした事態は達成感のカウンターのよう、高まっていたテンションを打ち砕いてしまいます。会員数だけでなく、会員の高齢化もクラブのポテンシャルをダウンさせてしまうでしょう。今では、新型コロナウイルスの連波にあわせてクラブ例会がストップしてしまい、ロータリーに対するモチベーションが損なわれて、いつの間にか寒風が吹くようになってしまったというクラブも増えているかもしれません。新型コロナウイルスと共に過ごさざるを得ない昨今、モチベーションの維持こそが緊急課題のように思えてなりません。

会員増強というテーマを数量達成のテクニックとして受け止めるだけではなく、ロータリーに対するモチベーションアップといふところにつなげて考えていくということに強い関心をもってきました。ロータリーに入会しても、ロータリーの魅力や醍醐味を体感しないまま漫然とロータリーを続けている人(恥ずかしながら、かつての自分の姿です)や、ロータリーを理解するに至らないまま入会して間もなく退会してしまう人がたくさんいるということを知ると、胸を締め付けられるような気持ちになります。会員増強から在籍の定着、つまり会員維持につなげなければ何の意味もない。さらに言えば、在籍期間だけでなく、ロータリアンとしてロータリーに対する熱い思いを増幅させていかなければ、アクティブなパワーは生まれてこないし、持続可能なロータリーにはならないとも思ってしまう。

ロータリーへのモチベーションや高い目的意識を保ち続けていくには、研修セミナーやミーティングを通して、向上へのスイッチを入れたり学びや情報入手を習慣化するという一連性も必要だと思います。掲げた目標に対して経過や結果を放置せず、きちんと確認して次の段階に活かしていくというスタイルも強く意識しなければならないと思います。

戦略計画には、会員増強と会員維持と会員資質向上をリンクさせた総合性のあるコンテンツが必須だと思いますし、行動計画として具体的に実行していくことが次の会員増強に弾みをつけることになるかと確信しています。

●MISSION:POSSIBLE～私たちにできること～

会員増強にしても奉仕活動にしても、最初から否定的に考えてしまうことがあると思います。見かけ上は謙遜や謙譲といった美德のように受け止められるかもしれませんが、ロータリーにおいてはモチベーションアップになりません。プラス志向による立場や行動こそが、ロータリアンとしてのステップアップになると言い切りたいと思います。

上記の目線で作成したテキストを添付しますので、ご活用いただきたいと思います。

第2地域 ロータリーコーディネーター補佐 関 邦則(長野RC)

2021-2022 地区内主要行事

月	日	曜日	行 事	場 所	担 当
5	8	日	2022-23年度 地区研修・協議会	作新学院大学	ホスト:宇都宮陽東RC
5	29	日	幹事エレクト研修セミナー(SETS)	作新学院大学	ホスト:宇都宮陽東RC
6	5	日	第1回受入ホストクラブ研修会	ホテルニューイタヤ	地区青少年交換委員会
6	5	日	西那須野ロータリークラブ創立50周年記念式典	割烹いとう家	
6	12	日	高校生RYLAセミナー	宇都宮文星女子高等学校	地区RYLA委員会
6	15	水	第2回インターアクト合同会議	ベルヴィ宇都宮	地区インターアクト委員会
6	19	日	米山第1回地区米山委員会・奨学生卓話研修会		地区米山記念奨学会委員会

物故会員

訃報
ご冥福を
お祈りいたします



その まさはる
添野 雅晴

今市きぬRC

2022年2月22日逝去(享年74歳)

1990年11月6日入会

ロータリー歴
2007—2008年度 会長
2001—2002年度 幹事

財団、米山記念奨学会などの寄付歴
財団 ベネファクター
マルチプル・ポール・ハリス・フェロー 3回
米山功労者 6回



コーディネーター NEWS

2022年5月号 No.2

発行: Region 1 & 2 & 3
ロータリーコーディネーター
ロータリー公共イメージコーディネーター

世界ポリオデー 2022 in Japan

2年余に及ぶ新型コロナウイルスの影響で、ロータリー活動にも大きな変化が生じました。ソーシャルディスタンスを保ちながら、例会、そして人道奉仕活動を継続していただきありがとうございました。

多くの皆様は、コロナワクチンの3回目のブースター接種を済まされたことと思います。政府は第4回目のワクチン接種も計画していると報じられています。改めて、ウィルスの感染防止に対して、ワクチンの重要性を再認識することになりました。ロータリーは30数年も「ポリオ根絶」に取り組んできました。

日本国内においてポリオはすでに忘れられた存在になっており、ポリオの意識は低いです。日本国内では、2012年9月から不活化ワクチン注射接種が始まりました。現在は、生後3か月から12か月の間に3回、その後追加接種で1回、合計4回の接種が行われています。日本でも毎年ワクチンを接種し続けないと海外からポリオウイルスが入ってくることによる感染リスクも考えられます。

「ポリオ根絶」はロータリーの最優先事項、ワクチン接種の継続こそが根絶への鍵であります。達成まであと少しです。

コロナを経験して、日本でも再度「ポリオ根絶」に力をいれていきたいと願っています。残り後2か国ですが、生ワクチンや不活化ワクチンの接種を継続していかなければなりません。ワクチンの代金、それを保存、運搬するクーラーなどに、まだまだ多くの費用が掛かります。皆様ご存知のように、ビル&メリンダ・ゲイツ財団がロータリーの資金に対し、2倍のマッチングを行っているので、皆様のポリオプラスのご寄付が3倍になるわけです。その支援がある間にぜひ、根絶したいと思います。

国際ロータリーでも、10月24日の「世界ポリオデー」には全世界で認知度を高め、寄付を募るイベントをしています。

今年は、日本各地で、地区単位、クラブ単位での世界ポリオデーイベントを企画、実施してポリオ根絶に挑戦したいと思います。今年は、ポリオ根絶コーディネーター(EPNC)はもとより、ロータリー公共イメージコーディネーター(RPIC)の皆さんがこの世界ポリオデーのイベントを地域や日本全国にメディアを使って発信し、ロータリーの認知度やイメージの向上につなげ、そして、会員増強までつなげたいということで、ロータリーコーディネーター(RC)の皆様、さらに、恒久基金/大口寄付アドバイザー(E/MGA)、と協働して、地域リーダー全員で「世界ポリオデー」を盛り上げて行くことができたらいいなと思っています。

第2地域 RRFC 服部 良男(愛知三州RC)

ロータリー財団功労者

ポール・ハリス・フェロー ご厚意に対し、深く感謝申し上げます。(2021年11月~2022年3月)

栗原 茂夫	足利わたらせ	菊地 重徳	真 岡	西	茂木 広至	栃	木	武田 文夫	宇都宮さつき
福田 康	今市きぬ	馬場 照夫	真 岡	岡	永谷 久美	栃	木	内仲 祐介	宇都宮さつき
金子 博明	今市きぬ	平石 典嗣	真 岡	岡	篠崎 善雄	栃	木	和知 孝道	宇都宮さつき
和貝 益男	今市きぬ	田辺 幸夫	真 岡	岡	高橋 達夫	栃	木	磯貝 太	宇都宮さつき
大出 雄一	今市きぬ	伊藤 悟	西 那 須 野	野	大古 秀子	氏	家	黒崎 丈博	宇都宮南
人見 哲史	鹿 沼	菊地 一浩	西 那 須 野	野	林 紀尚	宇 都 宮	90	村井 邦彦	宇 都 宮
野澤 充	鹿 沼	吉川 秀之	大 田 原	山	柏田 健介	宇 都 宮	90	新井 将能	宇 都 宮
宇賀神康明	鹿 沼	梶原 時雄	小 も つ け	南	柴原 幸一	宇 都 宮	90	毛塚 武久	宇 都 宮
相子 正幸	葛 生	萩原 仁	し も つ け	南	門倉 秀夫	宇 都 宮	東	三井 勝滋	宇 都 宮
飯田 稔	葛 生	篠崎 宏司	し も つ け	南	藪下 行平	宇 都 宮	東	永井 宏樹	宇 都 宮
今井 修	葛 生	早川 貴之	栃 木	南	谷田部 修	宇 都 宮	東		
奥山 浩司	葛 生	君嶋 淳子	栃 木	南	石川 均	宇 都 宮	さつき		
中山 健	壬 生	青木 良一	栃 木	木	亀井光一郎	宇 都 宮	さつき		
廣川 正人	真 岡	新井 博	栃 木	木	児玉 博利	宇 都 宮	さつき		

ベネファクター

金子 博明 今市きぬ 中野 勇夫 葛 生 戸叶 覚 佐 野 井上 智史 田 沼 埋橋 英夫 栃 木 南

ロータリー財団功労者

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

倉林 宏	足利わたらせ	1回	川嶋 健市	壬 生	1回	橋本 洋	大田原	5回	山本 修一	宇都宮東	2回
宮田 進	足利わたらせ	2回	高山 英城	壬 生	1回	旭岡 靖人	佐野	1回	二十二 修	宇都宮北	2回
源田 晃澄	足利わたらせ	3回	田上富美子	真岡西	1回	戸叶 覚	佐野	1回	青木 克浩	宇都宮南	1回
大門金一郎	今市きぬ	2回	谷中 洋子	真岡西	2回	後藤 俊一	佐野	5回	平澤 照隆	宇都宮南	3回
宮本 二郎	今市	3回	吉羽 徹	真岡西	3回	山本 郁夫	しもつけ	1回	坂本 昭一	宇都宮南	3回
鈴木 勤	鹿沼東	1回	山口久一郎	真岡西	5回	高山 忠則	しもつけ	2回	関 享一	宇都宮南	3回
大島 知	鹿沼東	2回	石塚 龍夫	真岡	1回	上野 秀雄	しもつけ	2回	高久 和男	宇都宮南	3回
早山 喜章	鹿沼	1回	三澤 幸光	真岡	1回	神山美恵子	栃木南	1回	鈴木 秀明	宇都宮南	4回
日向野博史	鹿沼	1回	齋藤 敏彦	真岡	1回	長谷川 孝	栃木南	2回	佐貫 直通	宇都宮陽東	8回
大貫 定之	鹿沼	1回	宇賀神裕一	真岡	2回	館野 功	栃木南	2回	町田 卓大	宇都宮	1回
福田 英昭	鹿沼	2回	篠原 泉	真岡	5回	熊倉 利明	栃木南	3回	善林 隆充	宇都宮	1回
日向野脩弘	鹿沼	2回	小関 栄	西那須野	2回	佐伯 莞司	栃木南	3回	大塚秋二郎	宇都宮	2回
金子 昭彦	鹿沼	2回	小出 文雄	西那須野	4回	若菜 秀夫	栃木西	6回	斎藤 高蔵	宇都宮	2回
倉松 俊弘	鹿沼	2回	渡辺 渉	西那須野	5回	大澤 光司	栃木	1回	篠崎 昌平	宇都宮	2回
大出孝三郎	鹿沼	4回	益子 浩	西那須野	6回	川嶋 幸雄	栃木家	8回	阿部 欣文	宇都宮	3回
駒形 忠晴	葛生	3回	高橋 智純	西那須野	6回	小山 研一	氏家	2回	北村 光弘	宇都宮	3回
須藤 功一	葛生	3回	小西久美子	大田原	2回	小野 好史	氏家	2回	矢嶋 昭司	宇都宮	3回
谷 和文	葛生	3回	橋本 憲一	大田原	4回	鈴木 義忠	宇都宮90	2回	直井美紀男	矢板	2回
坪内 馨	葛生	6回	岩上総一郎	大田原	4回	平野 利一	宇都宮東	1回			

米山記念奨学会功労者

米山功労者 ご厚意に対し、深く感謝申し上げます。(2021年11月～2022年3月)

萩原 仁	しもつけ	1回	佐々木 隆	宇都宮南	2回	小山 研一	氏家	3回	池亀 善紀	田沼	1回
谷中 好江	しもつけ	2回	青木 克浩	宇都宮南	2回	中村 浩之	氏家	3回	松本 常治	田沼	2回
南 俊郎	しもつけ	2回	藤井 康夫	宇都宮南	5回	大古 秀子	氏家	3回	新井 孝夫	田沼	3回
高山 忠則	しもつけ	8回	平澤 照隆	宇都宮南	6回	阿部 孝憲	氏家	4回	川嶋 幸雄	栃木	10回
岡川 光佑	宇都宮西	23回	鈴木 秀明	宇都宮南	7回	宇賀神康明	鹿沼	1回	川嶋 健	栃木	1回
中島 祥二	宇都宮西	5回	村上 芳弘	宇都宮南	8回	早山 喜章	鹿沼	2回	佐山 謙三	栃木	4回
狐塚 秀幸	今市	2回	高野澤 昇	宇都宮北	1回	福田 英昭	鹿沼	3回	須藤 隆志	栃木	5回
粉川 昭一	今市	2回	中村 雄三	宇都宮北	1回	市田 登	鹿沼	3回	大木 洋	栃木	5回
堀井 正喜	今市	3回	松島 邦夫	宇都宮北	1回	金子 昭彦	鹿沼	3回	羅田 秀顕	足利	15回
磯野信次郎	佐野	20回	関根 則次	宇都宮北	2回	秋山 康雄	鹿沼	9回	関口快太郎	宇都宮	1回
秋野 勝三	佐野	2回	大音 正信	宇都宮北	2回	留目 学	鹿沼中央	1回	草野 英二	宇都宮	1回
篠崎 博司	佐野	38回	上野 一典	宇都宮北	3回	鈴木 和也	鹿沼東	2回	荒井 規雄	宇都宮	2回
小原澤公康	足利わたらせ	3回	佐藤 晃	宇都宮北	3回	木村 剛考	鹿沼東	6回	石島 洋	宇都宮	2回
黒田 泰弘	大田原	1回	岩原 臣男	宇都宮北	8回	小浦 正久	小山	3回	長谷川 正	宇都宮	2回
吉川 秀之	大田原	1回	中村 勝	宇都宮陽南	4回	田川 宗定	小山	6回	篠崎 昌平	宇都宮	5回
福田 保男	大田原	2回	飯塚 達郎	葛生	1回	島中 晨一	小山南	2回	羽石 光臣	宇都宮東	8回
蜂巣 貞美	大田原	7回	奥山 浩司	葛生	1回	寺崎 貴志	西那須野	1回	平石 典嗣	真岡	1回
石井 侑男	矢板	5回	蓼沼 大介	葛生	1回	猪瀬 康雄	西那須野	1回	豊田 光弘	真岡	1回
三井 勝滋	宇都宮	1回	飯田 稔	葛生	1回	渡邊 将宏	西那須野	3回	青木 圭太	真岡	1回
伊原 修	宇都宮	1回	永井 治寿	葛生	2回	鈴木 明浩	西那須野	5回	中川 宏行	真岡	2回
新井 将能	宇都宮	1回	土屋 登	葛生	2回	益子 浩	西那須野	6回	大瀧 和弘	真岡	2回
池田 幸	宇都宮	1回	中野 勇夫	葛生	2回	阿左美善枝	足利東	2回	中山 健	壬生	1回
金山 典生	宇都宮	1回	谷 和文	葛生	4回	小座野清博	足利東	3回	渡邊 英喜	壬生	2回
佐藤 行正	宇都宮	2回	駒形 忠晴	葛生	5回	荻野 光一	足利東	4回	茂木 宏之	壬生	3回
善林 隆充	宇都宮	2回	吉澤 浅一	葛生	7回	五十嵐 章	足利東	8回			
辻 裕司	宇都宮東	6回	田澤 秀文	葛生	7回	大島 準	田沼	1回			
小保方明美	宇都宮南	1回	横塚 信也	葛生	9回	櫻井 順孝	田沼	1回			

米山功労クラブ

今市	25回	宇都宮北	34回	足利東	56回	真岡	44回
佐野	42回	宇都宮陽南	8回	栃木	35回	壬生	13回
足利わたらせ	16回	鹿沼	43回	宇都宮	49回	氏家	21回
宇都宮南	37回	小山南	17回	宇都宮陽東	21回		

3月会員数報告

	クラブ名	例会数	会 員 数								
			7月1日	今月	入会	退会	通算増	通算減	増減	内女性員	40歳未満
第1グループ	大 田 原	3	29	27	0	0	1	3	-2	1	0
	黒 磯	3	36	36	0	0	1	1	0	2	1
	西 那 須 野	2	47	45	0	2	1	3	-2	2	0
	黒 羽	2	7	7	0	0	0	0	0	0	0
	大 田 原 中 央	2	24	24	0	0	0	0	0	1	2
第2グループ	鳥 山	2	17	16	0	0	0	1	-1	2	0
	氏 家	0	24	23	0	0	0	1	-1	2	0
	矢 板	2	10	10	0	0	0	0	0	1	0
	馬 頭 小 川	4	21	21	0	0	0	0	0	0	0
	高 根 沢	2	15	14	0	0	0	1	-1	0	0
第3グループA	宇 都 宮	4	101	101	1	6	8	8	0	3	1
	宇 都 宮 西	3	75	73	0	1	1	3	-2	0	1
	宇 都 宮 北	2	43	42	0	0	1	2	-1	0	0
	宇 都 宮 90	1	46	46	0	0	2	2	0	6	3
	(宇都宮90結・衛星)	1	6	5	0	0	0	1	-1	3	2
第3グループB	宇 都 宮 陽 北	3	46	47	0	0	1	0	1	9	5
	宇 都 宮 東	4	112	116	0	0	8	4	4	0	5
	宇 都 宮 南	5	54	53	1	2	3	4	-1	6	1
	宇 都 宮 陽 東	1	49	49	0	0	1	1	0	8	1
	宇 都 宮 陽 南	4	24	24	0	0	1	1	0	7	4
第4グループ	宇 都 宮 さ つ き	1	25	27	0	0	2	0	2	4	4
	真 岡	0	57	59	0	0	2	0	2	0	0
	益 子	4	28	29	0	0	1	0	1	2	1
	真 岡 西	2	35	38	0	0	4	1	3	5	0
	し も つ け	3	20	19	0	0	1	2	-1	3	1

	クラブ名	例会数	会 員 数									
			7月1日	今月	入会	退会	通算増	通算減	増減	内女性員	40歳未満	
第5グループ	小 山	1	22	20	0	2	3	5	-2	1	0	
	小 山 南	1	15	14	0	0	0	1	-1	2	0	
	小 山 東	1	21	21	0	0	0	0	0	0	0	
	小 山 北	2	24	23	0	0	0	1	-1	0	4	
	小 山 中 央	1	24	24	0	0	0	0	0	2	0	
第6グループ	栃 木	5	46	48	0	0	4	2	2	5	0	
	栃 木 西	4	34	33	1	1	1	2	-1	1	0	
	岩 舟	1	11	10	0	0	0	1	-1	0	0	
	壬 生	1	20	20	0	0	0	0	0	2	0	
	栃 木 南	2	36	38	1	0	2	0	2	8	1	
第7グループ	日 光	4	21	21	0	0	0	0	0	4	0	
	鹿 沼	5	62	59	0	1	0	3	-3	2	4	
	今 市	4	41	42	0	0	2	1	1	1	0	
	鹿 沼 東	0	37	37	0	0	0	0	0	5	0	
	鹿 沼 中 央	0	17	17	0	0	0	0	0	2	0	
第8グループ	今 市 き ぬ	1	27	27	0	0	2	2	0	0	0	
	足 利	2	21	23	0	0	3	1	2	0	1	
	足 利 東	2	34	32	0	2	1	3	-2	4	0	
	足 利 西	2	11	11	0	0	0	0	0	1	0	
	足 利 わ た ら せ	2	35	35	0	0	0	0	0	0	0	
第9グループ	佐 野	2	55	55	0	1	1	1	0	0	0	
	葛 生	2	39	35	0	0	2	6	-4	0	6	
	田 沼	2	43	44	0	0	1	0	1	0	0	
	佐 野 東	3	21	21	0	0	1	1	0	2	0	
	4 8 R C		1668	1661	4	18	62	69	-7	109	48	

(メークアップは同じ年度内に行うことができるようになった為、地区では各クラブごとの出席率は掲載いたしません。)



国際ロータリー第2550地区 ガバナー事務所

〒321-0945 宇都宮市宿郷5-21-15

ベルヴィ宇都宮内1F

TEL:028-651-2550 FAX:028-651-2551

e-mail : m2550@agate.plala.or.jp URL : http://www.rid2550.com/